

講座案内

冬期湛水・不耕起移植栽培とは

自然耕塾で行われているのは、千葉県のご岩澤信夫氏*が提唱した冬期湛水・不耕起移植栽培から発展し、現在講師の鳥井報恩氏により取り組まれているものです。この栽培方法の特徴は、①耕さない②化学肥料や農薬を使用しない③冬も田んぼの水を抜かないというものです¹。この栽培方法は環境保全と稲作技術を両立するために組み立てられたものであり、除草剤・殺虫剤等の農薬を全く使いません²。稲の苗づくりでは、慣行的に行われている機械植えのための苗作り（2.5 葉）ではなく、病虫害や天候被害に強い健康的な成苗（5.5 葉）の育成を目指します。耕さないことがきっかけとなって、田んぼの生態環境がよみがえり、それらの生物による作用で土壌の肥沃化がもたらされます。冬期湛水・不耕起移植栽培とは、耕さない田んぼでおいしいお米がとれ、農薬を使わないため豊かな自然と触れ合いながら農業ができる一石二鳥の栽培方法です。

*岩澤信夫氏とは・・・「不耕起移植栽培」の普及に尽力し、環境問題に一石を投じるとともに、日本の農業のあるべき姿を模索し続けた。功績により第 42 回吉川英治文化賞受賞。

講座概要

本講座は、理論学習＋実技学習（実験田）にて構成されます。

不耕起移植栽培の先進的な農家である上原農場や藤崎農場を訪問し、無農薬の稲作りを専門で行う農家見学をします。

岩澤信夫の栽培理論を学ぶことは応用の利く無農薬農法の原理原則、イロハを学ぶことになります。理論と実践の詰まった豪華な年間学習講座であり、里山の自然に親しみながら無農薬の稲作りを体験したい方、生き物いっぱいの田んぼで土とのふれあいを楽しみたい方、自給自足農業に興味のある方などに適した講座です。

冬期湛水・不耕起移植栽培の田んぼには、様々な微生物の働きが欠かせません。講座内の授業では、光合成細菌、乳酸菌、酵母菌など微生物の働きについて学びます。また、日々の食事と健康における、麴、発芽玄米、甘酒など発酵食品の効果についても学んでゆきます。

尚、12 月の味噌づくり時には、自分で作ったお米での米麴と大豆を使い、「手前味噌」を作ることができます。これほどの贅沢はありません。ぜひご期待ください。



¹ 冬期湛水については、田んぼの条件によって実施できない場合があります。

² 育苗時に限り化学肥料の入った培土を使用します。

対象者

- ・お米の自給をしたい。
- ・緑豊かな里山の田んぼで生き物と触れ合いながら稲作りを体験したい。
- ・将来は「半農半X」に挑戦したい。
- ・農業に可能性を感じるがまず何をどう学んでよいかわからない。
- ・発芽玄米の麴・味噌造りをしてみたい。
- ・「不耕起・冬期湛水」農法に関心がある。現役引退後に趣味で実践したい。…etc

日時	2022 年 2 月～11 月（お米について 14 日間、大豆について 11 日間 計 25 日間）		
場所	千葉県佐倉市直弥・和田実験田（最寄駅 JR 総武本線南酒々井駅） 千葉県香取市（最寄駅 JR 成田線下総神崎駅）ほか		
受講料	<お米コース>全 14 回	80,000 円／1 人	（入学金 10,000 円を含む）
	同伴受講者（ご家族）	45,000 円／1 人	
	<大豆コース>全 11 回	40,000 円／1 人	（入学金 10,000 円を含む）
	同伴受講者（ご家族）	25,000 円／1 人	
	<お米・大豆コース>全 25 回	110,000 円／1 人	（入学金 10,000 円を含む）
	同伴受講者（ご家族）	60,000 円／1 人	

※12 月の味噌作りワークショップに関しては材料代を別途徴収します。

※一日から参加するスポット受講も受付けています。お米コース 7500 円/回、大豆コース 5000 円/回。

講師

<鳥井報恩>お米・大豆コースメイン講師



日本不耕起栽培普及会／理事、NPO 法人未来農業研究センター／理事、元千葉県立旭農業高等学校教諭
2001 年から不耕起栽培の岩澤信夫氏に師事し、同氏の技術を継承、普及に努めている。

＜藤崎芳秀＞お米コース特別講師



昭和14年生まれ。昭和34年に就農。昭和61年から不耕起栽培を始める。無農薬のコメ作りを行っている。最新の精米設備を持ち、こだわりのお米を生産・販売している。令和2年以降孫に経営を譲り、表層耕起の有機栽培に切り替えている。

書籍「プロフェッショナル農業人 ――“儲かる農業”をどうつくるか」大澤 信一 (著)にて紹介されている。

学習教材

- ★「不耕起でよみがえる」岩澤信夫（著）
- ★「究極の田んぼ」岩澤信夫（著）
- ★「ロジカルな田んぼ」松下明弘（著）
- ★「土・牛・微生物 文明の衰退を食い止める土の話」D. モントゴメリー（著）

コロナに対する対策について

2022 年現在も、コロナ禍は収まる気配がありません。自然耕塾では、講師の鳥井が独自の健康法を紹介することを通じ、参加者の皆さんの健康維持に貢献したいと考えています。具体的には、長岡式酵素玄米による食事法、ボカシ肥の作成により乳酸菌、麹菌、酵母菌、納豆菌などに親しむ活動、塩谷信男氏の「大健康力」で紹介されている腹式呼吸法、一日 5000 歩の散歩と早寝早起きの生活などです。鳥井講師の健康長寿を見習って、コロナに負けない健康づくりを目指していきたいと考えています。

連絡先

Tel: 090-3408-7965（福田）

E-mail: green_paddi@yahoo.co.jp

自然耕塾@佐倉 Tel / FAX: 0479-62-2739（鳥井）



〈お米作りコース日程〉 全 14 回（自由参加 3 回）

日にち	時間	講座概要	講座詳細
2 月 2 7 日 (日)	10:00 ,... 16:30	オリエンテーション・塩水選・	講義：オリエンテーション（千葉県佐倉市直弥） 実習：不耕起実験田（ニホンアカガエル産卵の観察）、浸種、塩水選
3 月 5 日 (土)	10:00 ,... 16:30	種まき見学 (機械まき)	実習： (埼玉県春日部 上原一夫・なつみ宅見学) ※自由参加 催芽処理（低温育苗）、播種量
3 月 12 日 (土)	10:00 ,... 16:30	播種① (手播き)	講義：育苗管理、水管理、発芽後のローラーがけ（三つ子の魂 100 まで） 実習：ビニールハウスでの育苗管理（千葉県佐倉市直弥）
3 月 19 日 (土)	10:00 ,... 16:30	播種② (手播き)	実習：露地栽培・平置きによる育苗、 (茨城県河内町金江津) ※自由参加
4 月 3 日 (日)	10:00 ,... 16:30	水田出し	講義：成苗作りのポイント（低温育苗の延長で寒さに慣らす） 実習：溝切り、畔塗り（千葉県佐倉市直弥）
4 月 10 日 (日)	10:00 ,... 16:30	水田出しプール 育苗	講義：成苗作りのポイント（畑の根から水田の根へ） 実習：1.5 葉苗の育苗用プール作成 (茨城県河内町金江津)
5 月 3 日 (火)	10:00 ,... 16:30	田植え①	講義：稲の葉齢調査（4.5～5.5 葉） 実習：田植え（千葉県佐倉市直弥）
5 月 4 日 (水)	10:00 ,... 16:30	田植え②	講義：稲の成長と分けつ 実習：田植え（クランク式田植え機）（千葉県佐倉市実験田）
6 月 18 日 (土)	10:00 ,... 16:30	生きもの調査 除草	実習：稲の生育観察、田んぼの生きもの調査、除草作業、水管理 (千葉県佐倉市直弥)
7 月 16 日 (土)	10:00 ,... 16:30	田んぼ観察	講義：稲刈りのタイミング
8 月 21 日 (日)	10:00 ,... 16:30	夏の田んぼ散策	秋の稲刈りに向け計画を立てる
9 月 4 日 (日)	10:00 ,... 16:30	稲刈りはざ掛け	実習：稲刈り（手刈り・バインダー刈り）、オダの作り方、縄の結び方 (千葉県佐倉市直弥)
10 月 1 日 (土)	10:00 ,... 16:30	乾燥、脱穀、 粳摺り見学	講義：収穫後の製品化行程について、水田の見学 ※自由参加 実習：脱穀、粳摺り、精米施設の見学、質疑応答 (千葉県香取市藤崎農場)

11 月 5 日 (土)	10:00 ,.. 16:30	まとめ 修了式	講義：秋・冬の水田管理について、玄米の食味検査方法 修了式、懇親会、反省を記録に残す（千葉県佐倉市直弥）
-----------------	--------------------	------------	---

●備考●

1. 気象条件やイネの生育状況により、圃場見学や実習の日程、会場や終了時間などの変更をする場合があります。
2. 当日の持ち物や服装は事前にお知らせしますが、雨天時の雨具、水田用長靴が必要になります。
3. 講習会場は佐倉市直弥の田んぼ近くにある家屋です。昼食は発芽玄米とみそ汁の簡単なものを準備します。
4. 毎回の集合場所・時間はく JR 総武本線 南酒々井（みなみしすい）駅 AM10:00＞ 又はく JR 成田線 滑河（なめがわ）駅 AM10:00＞ です。
5. 車でいらした方も集合は上記駅となります。車にて全員で移動し、講義会場の近くに駐車いただきます。10 月 1 日の回は不耕起・冬期湛水農法の先進農家である藤崎農場を視察します。その場合の集合場所はく JR 成田線 下総神崎（しもうさこうざき）駅 AM10:00＞ 車で移動 します。

＜大豆コース日程＞ 全 11 回（自由参加 2 回）

大豆コースでは、へそ曲がり大豆栽培法と自然栽培による直播で、無農薬大豆の栽培を行います。大豆栽培にとって重要なのは、①まず不耕起であること、②大豆と小麦・大麦の輪作であること、そして③稲わらによるマルチや敷き草により地表面を被覆する、という事です。これら三点による農法で、無農薬・無化学肥料栽培でも安定した収量とさらなる増収が可能となります。

日にち	時間	講座概要	講座詳細
6 月 4 日 (土)	10:00 ～ 16:00	栽培理論と種まき	「へそ曲がり大豆」栽培理論のイロハについて学習を行う。 土中緑化についての説明や播種作業を行う（ハウス内で行う）。
6 月 12 日 (日)	10:00 ～ 16:00	不耕起による 畑づくり、挿し木	土中緑化を終えて発芽した大豆苗における断根、摘芯、挿し木作業を実施し、その意味を体得する。植え付けのために畑を準備する。
6 月 25 日 (土)	10:00 ～ 16:00	植え付け①	大豆苗を畑に植え付ける。各受講者に割り当てた区画（1 区画 7.5 坪）に畝幅 1 0 0 c m 株間 50～60 c m で約 30～40 株を植え付ける。
7 月 3 日 (日)	10:00 ～ 16:00	植え付け② (オプション)	大豆の植え付け（へそ曲がり法と自然栽培による直播の二通り）。 場所は茨城県河内町の福田農園。（自由参加）
7 月 17 日 (日)	10:00 ～ 16:00	施肥① 土寄せ草取り	開花に合わせて施肥（液肥散布）を行う。倒伏を防ぎ、根を固めるための土寄せも必要に応じて実施。併せて草取り作業。 楽健法をアレンジしたブドウから菌を取り、パンを焼く
8 月 7 日 (日)	10:00 ～ 16:00	施肥②	灌水、油粕のボカシ肥、葉面散布。
10 月 16 日 (日)	10:00 ～ 16:00	収量調査	枝豆採取。枝豆を採取して大豆の結実具合と一株あたりの出来高、大豆の成長具合を確認する。収穫した枝豆は昼食でいただく。
11 月 13 日 (日)	10:00 ～ 16:00	刈り取り、乾燥	大豆刈り取り。株を根を残して切る。ガラス温室内にて乾燥大豆収穫後麦を播種、輪作により冬の間畑を裸地にしない

11 月 20 日 (日)	10:00 ~ 16:00	脱穀、選別修 了式	乾燥した大豆を人力にて脱穀（ブルーシートなど各自用意）、葉や枝などの ゴミを吹き飛ばし選別。修了式（まとめ）
11 月 26 日 (土)	10:00 ~ 16:00	脱粒	大豆の脱粒（予備日）
12 月半ば	8 : 30 ~ 15 : 00	麴・味噌造り (オプション)	不耕起・無農薬による米・大豆を使い、体にやさしいこうじ・味噌造りを行う。 (自由参加)

●備考●

1. 気象条件や大豆の生育状況により、実習の日程を変更したり、会場や終了時間も変更する場合があります。
2. 当日の持ち物や服装は事前にお知らせします。雨天時の雨具が必要になります。
3. 講習会場は佐倉市直弥の田んぼ近くにある家屋です。昼食は発芽玄米とみそ汁の簡単なものを準備します。
4. 毎回の集合場所・時間は<JR 総武本線 南酒々井（みなみすい）駅 AM9 : 40> 又は<JR 成田線 滑河（なめがわ）駅 AM10:00> です。
車でいらした方も集合は上記駅となります。車にて全員で移動し、講義会場の近くに駐車いただきます。

2022年「自然耕塾@佐倉」申込書

自然耕塾@佐倉のパンフレットの内容及び募集要項の受講の前提となる規約に同意の上、2022年「自然耕塾@佐倉」を申し込みます。

署名: 印

ご氏名	カナ	性	電話番号(平日の連絡手段: ☐ 携帯 ☐ 固定電話)																	
			男・女	固定電話		0					-					-				
				FAX		0						-					-			
				携帯電話		0		0	-					-						
住所	〒	昭・平 年 月 日生(歳)				都道府県 市区郡														
		区町村																		

受 講 者 情 報

☐ 日本不耕起栽培普及会会員		健康状態は、 ☐ 特に問題ない ☐ 特筆点がある。																	
☐ 塾生: _____ の同伴者																			
☐ 一般																			
☐ 傷害保険に加入済	保険会社名		傷害保険名										保険満了日						
														年 月 日					
☐ 傷害保険に加入予定(傷害保険名: _____、加入予定日: _____ 年 月 日付)																			
自然耕塾の受講形態	☐ 塾生A(年間受講) ☐ 塾生B(年間受講、基本的に水田保持者が対象)																		
	☐ スポット受講(月/日: ① / / 、② / / 、③ / / ④ / / 、⑤ / /)																		
集合場所(佐倉市直弥)までの交通手段:										☐ 車 ☐ 電車 ☐ その他()									
緊急時連絡先	かな		関係		緊急連絡電話番号														
	氏名				第1	0					-				-				
					第2	0						-				-			
お知らせの方法		☐ :印刷物(FAXやメール便)での配信を希望 ☐ :PCメール(pdfファイル)での配信を希望																	
PCメールアドレス																			
職業												職種							
加入団体や普段参加している活動: _____																			

イネづくりの具体的な計画				田んぼの面積				冬期湛水可能な田んぼ				耕さない田んぼの計画							
☐ ある ☐ 将来の夢				約 反(10a)				約 反(10a)				約 反(10a)							

その他の特筆事項: _____

注 (1) 必要事項に記載漏れがあると受付が遅れます。再度、内容をご確認の上お申し込みください。
記 (2) 定員に達した場合や受講に適さないと判断された場合は、お申し込みをお受けできないことがあります。

事務局 使用欄	受付	年 月 日	メモ	
------------	----	-------	----	--